

第1回人吉市復興まちづくり推進会議 議事録

日 時：令和6年8月20日(火) 15:00-16:30

場 所：市庁舎3階庁議室

出席者：[委員]

人吉市長	松岡 隼人
人吉市社会福祉協議会 会長	柴田 祐
熊本県立大学 教授	吉田 力
東校区支部 支部長	中村 良郎
西校区支部 支部長	皆越 英世
人吉市消防団 副団長	岩下 博明
人吉商工会議所 会頭	鳥越 英夫
人吉温泉観光協会 会長	井上 道代
人吉市文化財保護委員会 委員長	福川 義文
青井阿蘇神社 宮司	永田 政司
人吉市 PTA 連絡協議会 会長	北 貴之
(一社)ひとよし球磨青年会議所 理事長	飯島 直己
国土交通省 八代河川国道事務所長	田口 雄一
熊本県 球磨地域振興局 局長	中川 太介
熊本県 球磨川流域復興局 政策監	

[事務局]

人吉市 復興支援課

竹内 常泰 次長、田中 健志 係長、山田 千夏 主事

[デザイン会議 座長]

熊本大学 教授

星野 裕司(オンライン)

[デザイン会議 プロジェクトマネージャー (PM)]

人吉市 復興政策部

溝口 尚也 部長

ハートビートプラン

泉 英明 代表取締役

[デザイン会議 随行]

熊本県 球磨川流域復興局

平木 佑弥 参事

人吉市 復興政策部

緒方 竜二 政策統括監

復興建設部

立場 康宏 部長

市街地復興課

井上 敬明 次長

ハートビートプラン

新津 瞬、田中 颯太

資 料：【資料1 グランドデザイン推進方針概要版】

【資料2 2024年度人吉市復興まちづくり推進体制】

【資料3-1 人吉市復興まちづくり推進会議設置要項案・名簿】

【資料3-2 人吉市復興まちづくりデザイン会議設置要項案・名簿】

【資料4 2024年度人吉市復興まちづくりスケジュール】

【資料5 アクションプランのつくり方・伝え方】

【決定・承認事項】

1. グランドデザイン推進方針の内容について報告
2. 2024年度人吉市復興まちづくり推進体制について承認
3. 人吉市復興まちづくり推進会議設置要項について承認
4. 人吉市復興まちづくりデザイン会議設置要項について承認
5. 2024年度人吉市復興まちづくりスケジュールについて承認
6. 人吉市まちなかグランドデザイン推進アクションプランのつくり方・伝え方について承認

【議事録】

(1) 開会・市長挨拶

■開会のあいさつ

(竹内次長)

- ・ただいまより第1回人吉市復興まちづくり推進会議を開会する。
- ・委員の紹介は次第の裏面の出席者一覧を持って代えさせていただく。

■市長挨拶

(松岡市長)

- ・各委員へ会議参加のお礼。
- ・日頃より災害からの復旧復興にお力添えを頂いていることに感謝を申し上げる。
- ・発災当時、3277世帯に対して罹災証明を発行した。現在94%の世帯が再建している。残りの6%については、そのほとんどが住まい確保の課題である。中心市街地の災害公営住宅、仮設住宅を恒久的に住めるように改修を行っている。今年度末までには、市が用意する住宅に住んでいただけるように考えている。
- ・復興事業としては、中心市街地地区と青井地区において土地区画整理事業を実施している。
- ・青井地区は国道の拡幅と区画整理事業について、県が事業主体となり、事業を推進している。
- ・中心市街地の紺屋町については、市が事業主体となり、事業を推進している状況である。
- ・行政は道路等のハード整備を実施することはできるが、その上で、空間の使い方やその仕組みを組み立てなければ、まちは機能しないと認識している。
- ・水害によって顕在化した課題を市と住民が共に解決していくために、住民の方にご参画いただき、復興まちづくり計画を策定した。それらを集約し、どの時点で具体的にどのようなことを実施することが必要なのかを議論するのがこの会議の趣旨である。民間の知恵を拝借し、行政と民間の歯車がかみ合うようなまちづくりをしていきたいと考えている。今後も50年、100年と持続発展するまちを目指すためにご意見をいただけると幸いである。

(2) 復興まちづくりの目的・経緯・グランドデザイン推進方針について

【資料1 グランドデザイン推進方針概要版】

■人吉市まちなかグランドデザイン推進方針について

(溝口 PM)

- ・令和2年に水害を受け、復興まちづくり計画に基づいた取り組みを進めているが、特に被害の多かった中心市街地地区・青井地区・麓老神地区を対象に、これらのエリアを横断したまちづくりの方策を定めたものが、まちなかグランドデザインである。
- ・まちが目指す方針や各プロジェクトを分かりやすく明示しながら、定められた方針を早急に具現化することが目的である。令和9年度までに見通しを立て、令和12年度には目的を達成したいと考えている。
- ・対象の範囲は、中心市街地地区・青井地区・麓老神地区の3地区に加え、人吉市役所、人吉 IC、人吉球磨スマート IC を含むエリアである
- ・地域の特性としては、国宝や重要文化財が点在している、区画整理事業・災害公営住宅の建設をはじめとした復旧復興事業が進んでいる、豪雨災害により人口減少が加速している地域であるといった要素が挙げられる。
- ・豪雨災害以前に住んでいた場所の近くにまた住みたいという人が多い。
- ・まちなかの事業者や従業員数も減少している。
- ・中心市街地と青井地区に関しては、公費解体が進み、低未利用地も増えているという状況である。
- ・観光客もコロナや水害を受け、大きく減少し、従前の通りの観光客数になかなか戻らない。まちなかは飲食店が減少したことで人流に変化が生じている。
- ・宿泊観光の需要があるため、夜間照明も重要だと考えている。
- ・住みやすく吸引力があるまちなかを再構築する必要があると考えている。また、雇用の創出や地域活性

化につながるようなまちづくりが必要であると考えている。

- ・それらを推進し、持続的な取り組みにするための体制づくりが必要である。
- ・3つの地区と3つの柱が重要であると考えている。
- ・3つの地区は3つの柱という表現で拠点化すると同時に、拠点間の回遊促進を図っていききたい。
- ・3つの柱というのは、
 - ①安全安心とともにある復興。水害としなやかに向き合いながらプラスに転換していくようなまちづくりを進めている。特に地域の暮らしを再建することが重要である、また、空き地を活用するために官民連携の取り組みを進めていきたい。各拠点が離れているため利便性の高い移動サービス等に向けて、地域公共交通の充実が図られるべきだと考えている。
 - ②多様な文化とともにある復興。多様な文化が心地よい環境を育む人間尺度を大切にしたい。具体的には青井阿蘇を中心とした賑わい拠点の強化に力を入れたい。中心市街地については鶯温泉や山田川周辺の新たな文化の創出を目指している。経済活性化の観点としては、観光に力を入れることと、民間投資を呼び込める官民連携の体制を作っていきたいと考えている。来街者の呼び込みや戦略的なプロモーションを展開し、人吉のまちづくりを対外的にPRしていききたい。
 - ③美しい球磨川・盆地とともにある復興
 - ・山々に囲まれながら川を感じ、川に開いた暮らしを目指したい。人吉の風土を生かしつつ、時代に合わせたまちの使い方を実現していく。豊かな山々と共に球磨川を活用した風景づくりを考えていきたい。
- ・(p7 記載の)赤で着色している箇所が6つの拠点である。それらを回遊動線で結ぶということを考えている。
- ・(p8 記載の)イラストは徐々にバージョンアップしていききたい。
- ・これらを推進していく上では体制づくりが必要になってくると考えているため、まちなかの価値を高めるために公民連携の取り組みで推進する。利用者など担い手の事を考えてハード整備を行う。この2点を重要に考えたい。
- ・地域活性や雇用創出につなげるために民間投資を呼び込みたい。それを担う人材を発掘し育成する必要がある。
- ・社会実験といった小さな取り組みから始めて大きく育てる視点と、人吉の魅力を対外的に発信することに力を入れたい。
- ・一度決めた計画でも毎年アップデートしていけると良いと考えている。
- ・最後にこれらを進める座組が重要である。企画の提案や実施検討を行うデザイン会議と、デザイン会議で決まった方針の意思決定を行う推進会議という2つの体制で推進していく。
- ・上記の会議の役割は、デザイン会議で計画を立案し、その中の提案を基に各プロジェクトを推進し、それらの進捗把握やデザイン監修を行った上で、それらを推進会議に諮り、承認頂く。それを受け、さらにプロジェクトを推進していくというPDCAサイクルを作っていきたい。

(竹内次長)

- ・上記に関して、質問等がある委員はいるか。

(委員から質問無し)

(3) 人吉市復興まちづくり推進体制について

【資料2 2024年度人吉市復興まちづくり推進体制】

【資料3-1 人吉市復興まちづくり推進会議設置要項案・名簿】

【資料3-2 人吉市復興まちづくりデザイン会議設置要項案・名簿】

■復興まちづくり推進体制について

(溝口PM)

- ・推進会議は、人吉のエリア価値向上に向けた最終的な意思決定機関という位置づけである。市長を会長とし、各有識者、各界の代表者、行政機関に委員としてご参画いただく。第2回の推進会議よ

り、デザイン会議での提案を受け、ご意見をいただき意思決定いただきたい。

- ・デザイン会議は、事業のクオリティコントロールと継続的なエリアマネジメント、具体策の提案、各プロジェクトのデザインの監修、事業者間のやり取りや調整などを行う会議体である。有識者を座長として、行政と民間のプロジェクトマネージャー、各専門家で構成される。
- ・デザイン会議は組織横断的な会議体であるため、プロジェクトごとにタスクフォース(以下、TF)を設けている。各 TF での議論の内容をデザイン会議に提示し、デザイン会議で議論した提案を推進会議に諮り、意思決定を行っていただくという構成を考えている。
- ・デザイン会議はプロジェクトマネージャー・事業組成・公民連携・情報発信・ハードデザイン(ランドスケープ・夜間照明・交通)の専門家で構成される。各事業者は既に決定しており、資料に名前を明記している。今後は民間の事業者にも参画していただく予定であるが、現時点では民間事業者は決定していない。今後各プロジェクト・タスクフォースを進めながら、ご参画いただく民間事業者を発掘したい。
- ・デザイン会議だけで物事を決定するのではなく、地元と合同意見交換会や事業者 WS、関係者の個別の協議を通じて、広く市民の方々の意見を募りたい。

(竹内次長)

- ・上記に関して、質問等がある委員はいるか。

(岩下委員)

- ・球磨川下りは現在翠嵐楼まで下れるが一勝地まで下れるようにしていただきたい。スリルがあることが重要であるため、より下流まで下れるようにした方が良い。

(溝口 PM)

- ・今後の検討課題とさせていただく。

(鳥越委員)

- ・地元ではマンパワー不足であるため、色々な専門家が参画していただいている。一方で、場合によっては地元の事業者を利用していただきたい。クオリティコントロールやレギュレーションの問題はあると思うが、地元の印刷業者を利用するなど、地元の事業者を活用することが重要と考える。どのように地元に対してお金を出すのかということも踏まえながら、今後地元の事業者に引き継げるような体制を作ってほしい。

(泉 PM)

- ・昨年度のグランドデザインは行政の事業としての枠組みである。今後は市民がどのようにまちを作り、まちに対して誇りを持つことができるかが重要である。民間の方に積極的に関わってもらう仕組みを作ることが、今回のアクションプランの大きな意味である。
- ・今回の体制に加わる専門家は、市民や事業者に対してアドバイスをするというよりは地元と一緒に並走するイメージを持っている。是非、地元がやりたいことを実現するために専門家を利用してほしい。専門家は、地域との合意形成を得ることや、社会実験等を試行して常設の計画に反映するなど、地域と並走して進んでいきたいと考えている。
- ・他の地域でも、専門家はある程度長い期間関わるが、その後事業や運営は地域に引き継いでいる。そうなれるように考えている。
- ・また、多くのエリアの TF がある上、1つのエリア内でも、国・県・市の事業がある。行政の事業と呼応して民間の事業としてどんなことをしたい、どんなことができるというアイディアを出し合いデザイン会議で議論する。その中で方針を打ち出し、推進会議に諮りたいと考えている。

(北委員)

- ・質問が2点ある。1つ目は今回の体制を見ていると既存事業者への配慮が感じられない。既に水害後のまちの復興に携わっている地域の事業者による今後の経済発展という視点が重要であると考え。新たな担い手ではなく、既にこれまで地域で様々な取り組みをされている人材を明記する必要があると考える。2つ目は、TFのメンバーは行政関係が多く、一部民間事業者や一般社団法人が含まれている。このメンバー構成の意図を伺いたい。

(溝口 PM)

- ・現在取り組んでいるTFでは、今後その場所を運営していく民間の担い手が見えていないのが現状である。当然これまで地域で活動されている方にその役割を担ってほしいという気持ちを持っている。別に新規の人を念頭に置いているわけではないということをご理解いただきたい。
- ・また、各地域によって事業の性質が異なる。例えば、中川原公園ではかわまちづくり実行委員会が既に社会実験を実施しているためTFのメンバーとなっている。駅前には観光協会の案内所があり、青井の杜外苑街づくり協会はMOZOCAステーションの業務委託を受けており、そのような関わりがある人をTFのメンバーに据えている。

(北委員)

- ・承知した。

(泉 PM)

- ・民間事業者については、現在その動きが見えている事業者しかTFのメンバーに加えることができていない。例えば、今後「交通」のTFに北委員に加わっていただくなど、ヒアリングを行っていく中でTFのメンバーは更新していきたい。現在は行政がリーダーになっているが、今後コアとなる民間事業者が決まればリーダーになってもいいと考えている。

(柴田委員)

- ・現在は行政発の事業・TFが並んでいる状況である。今後、例えば北委員の事業を始め、その事業がTFになることも考えられるのか。

(溝口 PM)

- ・考えられる。それがあべき姿であると考えている。

(永田委員)

- ・人吉には公園がいくつかあるが、ボール遊びができるような公園はない。また、雨の日に子供たちが遊ぶ場所がなく、現状は家で遊ぶ、もしくはジャスコやゆめマートに行くことが多い。
- ・また、川でも遊べず、年々遊び場が子供たちから奪われている。高校を出るとほとんどの人が人吉を出てしまう。将来人吉に帰って来るためにも、安心して子供が遊べる場所を作るということは地域にとってもよい事だと考える。PTAの方の様々な意見を取り入れることはできるのか。

(泉 PM)

- ・そのような意見はぜひ取り入れたい。未来に向かってまちづくりを行う上では重要な視点だと思う。

(北委員)

- ・この議題については審議事項と記載されているが、この体制を承認した後でも、TFのメンバーは今後も変更する可能性があるという認識で間違いはないか。

(溝口 PM)

- ・その通りである。

(竹内次長)

- ・2024 年度人吉復興まちづくり推進体制について承認いただけるか。

(委員から異論無し)

→承認

■推進会議設置要項について

(溝口 PM)

- ・復興まちづくり事業の推進を図るため、地域の意見及び専門的知見を踏まえて意思決定を行うという趣旨で推進会議を設置している。
- ・所掌事務としては、復興まちづくりデザイン会議より提案される内容等について、様々な観点からご意見を述べていただき、意思決定を行うものとする。
- ・組織については、次の各号に掲げるもののうち、市長が認めるものを置くものとする。
 - (1)地域を代表する者
 - (2)経済団体を代表する者
 - (3)学識経験者
 - (4)行政機関
 - (5)前各号に掲げる者のほか市長が必要と認める者
- ・(5)については、グランドデザインに記載されている安心安全なまちづくりや、歴史文化に根差したまちづくりなどを踏まえて、推進会議委員を選任させていただいている。
- ・委員の任期については、3 年を超えない範囲で市長が定めるものとしているが、一定の区切りが令和 9 年度となっているため、それを超えない範囲で 3 年を目途に考えたいと思っている。
- ・当該団体の代表で出席いただいている委員については役員交代となった場合、交代された方にお務めいただきたい。
- ・会長については市長をもって充て、本会議の議事を進行する。
- ・会議については、会長が委員を招集する。また、審議上必要があると認められるときは委員以外の方の出席を認めたいと考えている。
- ・会議の公開については、原則として公開とする。内容により、この会議において非公開にすると決定すれば、非公開とすることもできる。会議録も原則公開する。

(竹内次長)

- ・上記に関して、質問等がある委員はいるか。

(委員から質問無し)

(竹内次長)

- ・2024 年度人吉復興まちづくり推進会議設置要項案について承認いただけるか。

→承認

■デザイン会議設置要項案

(溝口 PM)

- ・復興まちづくりデザイン会議は、復興まちづくり事業の推進を図るため、具体的な実施方針をまとめ、推進会議に提案することを目的としている。
- ・所掌業務としては、以下の通りとする。
 - (1)官民が実施する取組のクオリティコントロールに関すること。
 - (2)持続可能なエリアマネジメントに関すること。
 - (3)人吉市まちなかグランドデザイン推進方針(令和 6 年 3 月)の進捗確認及び更新に関すること。
 - (4)その他人吉市復興まちづくり計画等に基づく復興まちづくり事業の具現化のため必要な事項に関

すること。

(5)その他プランの具現化のため必要な事項に関すること。

- ・組織については、次の各号に掲げるもののうち、市長が認めるものを置くものとする。

(1)学識経験者

(2)人吉市復興まちづくり推進等業務委託の受託事業者

(3)リノベーション、ランドスケープ、夜間照明、公民連携、交通、情報発信、観光、デジタル等の
担当技術者又は専門家

(4)金融その他事業の推進に必要な専門性を有する者

(5)地域への強い想いと実行力を持つ者、主となる事業を実施する又は実施予定の事業者等

(6)前各号に掲げる者のほか、市長が特に必要と認める者

- ・委員の任期については、推進会議と同様の考え方で 3 年を超えない範囲で市長が定めるものとする。
- ・デザイン会議の座長については学識経験者をもって充てる。デザイン会議を代表し、推進会議にも参画していただく。
- ・運営体制は、行政及び民間のプロジェクトマネージャーを 1 名ずつ置き、行政、民間それぞれの調整を行う。
- ・民間のプロジェクトマネージャーは、復興まちづくり推進等業務委託の委託事業者とする。民間のプロジェクトマネージャーは推進会議の議論内容を総括し、議事進行を行っていただくこととする。
- ・会議の招集は行政のプロジェクトマネージャーが担当する。
- ・推進会議と同様、審議上必要だと認められる場合は委員以外の方にもご出席いただき、意見を求めるものとする。
- ・デザイン会議については非公開とする。各 PJ の中で個人名も出る。議事概要は市の HP に載せていく。個別の議論は非公開にする。

(竹内次長)

- ・上記に関して、質問等がある委員はいるか。

(委員から質問無し)

(竹内次長)

- ・2024 年度人吉復興まちづくりデザイン会議設置要項案について承認いただけるか。

→承認

(4) 人吉市復興まちづくりスケジュールについて

【資料4 2024 年度人吉市復興まちづくりスケジュール】

(泉 PM)

- ・今年度のスケジュールについて説明する。推進会議は今年度 3 回実施したい。
- ・今年度の一番の目標は、今年度末にアクションプランを作成することである。アクションプランというのは、昨年度策定されたランドデザインを受け、今年度その実現のためにどのような動き方をするのか、あるいは具体的な空間像とその使い方について明示するものである。
- ・それと合わせ、将来的な空間の使い方や各プロジェクトの事業化に向け、来年度 2 週間～1 か月程度、一定期間を設けて社会実験を実施したい。アクションプランで描いたイメージが日常化すると、どのような風景になるのかということを実践してみるということである。その社会実験をどのようなプレイヤーがどの場所で実践するのかということについても併せて 3 月に目途をつけたいと考えている。
- ・ランドデザインは大きなまちづくりの方向性を示すものであるが、今年度は先ほど説明されていた TF を用いて、各エリアの使い方やその担い手を想定していきたい。
- ・また、アクションプランの素案を 10 月末までに作成し、11 月の第 2 回推進会議にて、アクションプランの素案に対してご意見を頂戴し、来年度以降の動きに繋げたい。
- ・デザイン会議は明日より月 1 回実施予定である。その中でアクションプランの具体的な内容について協

議したい。

- ・素案が完成した 10 月以降については、合同意見交換会や事業者ワークショップ、まちなかフォーラムを実施し、市民との意見交換や、事業者と具体的な事業内容に関する話し合いをしたいと考えている。
- ・情報発信については、誰をターゲットにどのような情報を発信するかということを 10 月末までに検討し、11 月以降に情報発信を進めていきたい。
- ・ハード整備については、様々な事業が各エリアに跨って実施されているが、その全体像を把握した上で、ハードに関連する専門家に対して、エリア横断的にデザイン監修をお願いする。
- ・コア事業である鶯温泉については、ワークヴィジョンズ西村氏が事業コンセプトの検討や、今後事業実施の可能性のある事業者、土地・建物オーナーに対してヒアリングを行っている。社会実験も今年度実施する予定である。
- ・社会実験については、既に胸川で 7 月に実施している。子供たちと保護者を対象に、安全な川遊びの方法などを学ぶ内容であった。中川原公園についてはこれから工事が実施されるが、工事中も中川原公園を利用できないか検討している状況である。
- ・様々な事業者に対してヒアリングも行っており、事業者の皆さんのアイディアもアクションプランに加えたいと考えている。
- ・その他、回遊性の仕組みや交通再編・駐車場配置、エリア経営の内容や景観ガイドラインなども考えていきたいと考えている。

(松岡会長)

- ・上記に関して、質問等がある委員はいるか。

(委員から質問無し)

(松岡会長)

- ・人吉市復興まちづくりスケジュールについてについて承認いただけるか。

→承認

(5)「人吉市まちなかグランドデザイン推進アクションプラン」のつくり方、市民／事業者への共有について

【資料5 アクションプランのつくり方・伝え方】

(泉 PM)

- ・10 月末に作成するアクションプラン素案については、様々な専門家や事業者のアイディアを反映して作成する。
- ・事業者に対しては、行政と同様にヒアリングを実施し、各エリアや場所での活用や事業のアイディアに加え、その中で何に関わりたいのかも併せてイメージする。
- ・各専門家からも意見や具体的な提案をいただき、反映させる。
- ・行政、民間、事業者のアイディアや提案を合わせたものがアクションプラン素案となる。具体的な内容は資料に記載されている通りである(p20)。
- ・地域の方との意見交換会に加えて、地元の一部の方には随時 TF にも参画していただきながら、3 月にはアクションプランとしてとりまとめたい。
- ・行政のプランでは、誰が事業主体になるかが不明になるケースが多く、それでは実際には動かない。また、民間事業者や市民がプレイヤーとして参加することで、シビックプライドを醸成したい。民間の取り組みを行政が応援していくような体制を作りたい。トップダウンでなく、民間や市民アイディアを行政のプランに反映させて応援していくというこれまでとは逆の進め方をしたい。
- ・目次に関する詳細な説明は省くが、一番は生活復興が重要だと考えている。それを経済的な効果に波及させたい。生活復興と観光の両輪で進めたいと考えている。
- ・エリアの楽しみ方については、生活者がどのように場所で過ごし、どのような楽しみ方をするか、またどのような拠点があったらいいかを明記したい。

- ・アクションプラン作りのプロセスについては、これまでも説明させていただいたが、10 月末に完成した素案を、11 月に推進会議で承認いただき、12 月より住民や事業者と意見交換を行った上で、最終的には広く対外的にまちなかフォーラムの場で発信していきたいと考えている。
- ・地域住民や事業者の皆さんとのコミュニケーションの仕方についてご意見やアイデアがあればお伺いしたい。

(松岡会長)

- ・上記に関して、質問等がある委員はいるか。

(鳥越委員)

- ・先ほど地元の事業者を入れてほしいという話をしたが、地元の方はまちを俯瞰的に見ることができないため、専門家の判断が正しい事もあると考えている。地元の人は自らの商いの都合や個人的な意見が入る可能性が高く、声の大きい地元の意見が採用されてしまう危惧がある。持続的で将来を見据えたプランニングをデザイン会議の専門家が判断し、時には地元から嫌われ者になることも必要だと思う。そのような視点を持って意見を収集していただきたい。

(泉 PM)

- ・まさにおっしゃる通りだと考えている。実際に動いていくのは TF であるため、専門家は民間とセットで動いていきたい。一方で、専門家は大局を見ながらプランニングをするべきだと考えている。

(飯島委員)

- ・まちづくりはひとつづくりだと考えている。地域の意見を聞くときには必ず人づくりを考えていただきたい。地元の意見を鵜呑みにするというわけではないが、まちづくりのメインは地域の住民である。地域のリーダーとなる方を発掘し、専門家は黒子としてバックアップしてほしい。今後は人口減少が進んでいく。その中で生業を維持し、経済を回していくという観点を持っていただきたい。持続可能なまちづくりとは、小さいところから始め、大きく育てるということだと考えている。

(柴田委員)

- ・今年度の進め方については理解したが、来年度の動きについて分かる範囲で教えてほしい。

(泉 PM)

- ・来年度は時期や期間は具体的に決定していないが、アクションプランで描いた様々な動きについて社会実験を通して皆で共通体験をして、地元に関心を生んでいきたい。
- ・社会実験を受けて、実際に場所を決め、事業を起こしたいという民間事業者が出てくると思う。それと合わせてハード整備も動いていくため、それらをすり合わせる公民の連携が必要になってくると考えている。

(柴田委員)

- ・それでは来年度の推進会議でも、意思決定を行う内容があるのか

(溝口 PM)

- ・具体的に決定する事案があると考えている。

(北委員)

- ・事業者ワークショップを実施するとの記載がある。地元の意見が入るとまとまりにくいという鳥越委員の話もあったが、子育て世代などが地域を見つめ直す良い機会だと思う。このような会議に来たことが

ない住民がほとんどであるため、世代別でワークショップを実施するなど、若者が入ることができるような会議体があると良いのではないかと。

(泉 PM)

- ・是非お願いしたい。具体的にどのように実施するのがよいか伺いたい。

(北委員)

- ・具体的な案はないが、青年会議所や商工会議所青年部は 20 代から 40 代の経営者がいる。PTA 等の団体からトップダウン的に案内は出せると思う。誰をどのように呼ぶのかということは今後具体的な議論が必要だと思う。

(泉 PM)

- ・PTA や消防団の方はどういうアプローチでどのような方に意見を貰うのがよいか。

(永田委員)

- ・PTA は 2 か月に一回ほど実施され、会長や理事が約 20 名来る。各校で実施されるので、100 名程度は意見を聞くことができる。

(皆越委員)

- ・消防団は理事会という会議があるため、その中で意見を求めることができる。理事会は各分団の副分団長以上が集まる会議である。2 か月や 3 か月に一度その会議が設けられる。

(泉 PM)

- ・その他の方はいかがか。

(岩下委員)

- ・空き地が多く存在していて、地主さんは様々なご意向がある。交渉に際し要請があれば商工会議所もできる範囲で協力する。若い人が活発に動くことが一番だと考えている。

(吉田委員)

- ・様々な提案に対して答えるのと、自身がどのような意見を持っているのかを聞くという 2 種類がある。意見の伺い方は多様であるため難しい問題である。

(中村委員)

- ・人吉は 6 校区あり、6 人の支部長がいる。本会議は支部長が 2 人だけ来ている。あと 4 人もいるため、その方に来ていただければ、様々な意見が聞けると思う。

(泉 PM)

- ・井上委員は歴史や文化に詳しいが、歴史や文化については個別にお聞きしたほうが良いか。

(井上委員)

- ・熱中小学校は熱心な方が多い。その中の若い方に声を掛けられ、3 時間のまち歩きを行った。当初は 1 時間の想定だった。熱心で向上心があって色々な事業に関わっている若い参加者が多かった。その若者たちは様々なことに興味があり、熱中小学校に参加しているが、意外と人吉の歴史を知らないということで、1 回目は座学で 2 時間レクチャーを行い、2 回目はまちを歩いて回り歴史を学んでもらった。そのような方々や団体にも来ていただくと、参考になる意見が出てくるのではないかと考える。

(泉 PM)

- ・今後そのようなことをやっていただけるのか。

(井上委員)

- ・観光案内は経験がないができるかもしれない。

(柴田委員)

- ・確認だが、事業者ワークショップは実際に事業を動かす人が参加する一方で、意見交換会はどうような人が参加するイメージか。

(泉 PM)

- ・区別がしにくいものもある。資料に記載している回数にとらわれなくてもよい。本日の話を受けて、団体ごとに意見交換する、いくつかまとめて行うのがよいか相談したい。

(柴田委員)

- ・3月のまちなかフォーラムは市民向けに実施するのか。

(泉 PM)

- ・その通りである。市民に加え、人吉市よりも広い範囲に伝えたい。

(柴田委員)

- ・人吉球磨の範囲か。

(泉 PM)

- ・その通りである。

(松岡会長)

- ・人吉市まちなかランドデザイン推進アクションプランのつくり方・伝え方について承認いただけるか。

→承認

(6) その他／日程確認

【資料6 復興まちづくり推進会議年間スケジュール】

(溝口 PM)

- ・(p23 記載の)資料に記載の日程にて次回以降推進会議を実施したいと思う。推進会議から意見や質問があった場合はデザイン会議でも取り上げる。

(松岡会長)

- ・何かその他意見や質問はないか。
(委員から質問無し)

(7) 閉会

(松岡会長)

これをもって第1回人吉市復興まちづくり推進会議を閉会する。本日は誠にありがとうございました。

以上